



会社名 J.フロント リテイリング株式会社  
 コード番号 3086  
 代表者名 代表取締役社長  
 山本 良一  
 お問合せ先 経営戦略統括部  
 コーポレートガバナンス推進担当  
 IR・グループ広報  
 TEL 03-6895-0178

## 2015年12月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

### 1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	12月度	9～12月度累計
百貨店事業	0.1	0.9
パルコ事業	1.4	1.9
卸売事業	▲ 21.0	▲ 11.7
クレジット事業	6.4	5.6
その他事業	7.6	13.4
連結合計	▲ 0.3	1.2

### 2. 売上高概況

#### 1) 百貨店事業

- ・ 12月度の百貨店事業の売上は、気温が平年より高く推移したことにより、コート、手袋、ロングブーツなど冬物衣料雑貨が苦戦したものの、ラグジュアリーブランドをはじめ、おせち、クリスマスケーキなどが好調に推移したこと、心斎橋店本館建替え前の売り納めセールによる嵩上げ効果も加わり、大丸松坂屋百貨店合計では対前年0.3%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同0.1%増となった。

#### 2) パルコ事業

- ・ 気温が平年より高く推移したことにより、コートなど冬物ファッションの動きが鈍かったものの、時計、化粧品などが好調を維持したほか、専門店ヌーヴ・エイの新規店舗による売上増も寄与したことから、パルコ事業全体では対前年1.4%増となった。

#### 3) その他

- ・ 卸売事業の大丸興業は、食品・リテール事業が苦戦したほか、電子デバイスが前年に大幅増になった反動も加わり、対前年▲21.0%減となった。
- ・ クレジット事業のJFRカードは、加盟店手数料、割賦販売手数料や年会費収入などが増加したことから、対前年6.4%増となった。
- ・ その他事業は、J.フロント建装が大丸松坂屋百貨店の売場改装に加え、テーマパークなどの内装工事受注などにより大幅増となったほか、人材派遣業のディンプルの好調などにより、対前年7.6%増となった。

お問合せ先 J.フロント リテイリング株式会社 コーポレートガバナンス推進担当  
 IR・グループ広報

TEL 03-6895-0178  
 FAX 03-6674-7565

## 2015年12月度 百貨店事業 営業報告

### 1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	12月度		9～12月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	6.5	6.2	9.7	4.1
大丸 梅田店	▲0.7	▲4.4	0.3	▲4.2
大丸 東京店	4.8	1.4	4.7	1.5
大丸 浦和パルコ店	▲13.5	▲14.2	▲7.0	▲7.3
大丸 京都店	▲0.6	▲0.9	▲0.6	▲2.3
大丸 山科店	▲3.0	▲2.5	▲2.5	▲2.8
大丸 神戸店	▲1.8	▲3.8	▲0.2	▲2.3
大丸 須磨店	▲6.8	▲4.5	▲4.7	▲3.9
大丸 芦屋店	▲3.4	3.6	▲3.0	3.4
大丸 札幌店	1.3	▲0.5	0.4	▲2.5
松坂屋 名古屋店	▲0.7	7.2	▲0.5	2.6
松坂屋 上野店	▲2.9	▲1.6	▲2.6	▲0.6
松坂屋 静岡店	▲5.6	▲1.5	▲3.8	▲2.2
松坂屋 高槻店	▲1.9	▲5.3	▲3.6	▲4.8
松坂屋 豊田店	▲0.2	5.1	0.3	3.7
<b>大丸松坂屋百貨店合計</b>	<b>0.3</b>	<b>▲0.1</b>	<b>1.1</b>	<b>▲0.7</b>
博多大丸	0.3	1.2	1.4	▲1.4
下関大丸	▲3.6	▲5.1	▲5.9	▲6.5
高知大丸	▲2.9	▲5.9	▲4.2	▲7.1
<b>百貨店事業合計</b>	<b>0.1</b>	<b>▲0.2</b>	<b>0.9</b>	<b>▲1.0</b>

### 2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	12月度	9～12月度累計
紳士服・洋品	▲4.1	▲4.3
婦人服・洋品	▲1.7	▲1.1
子供服・洋品	0.5	0.0
その他の衣料品	▲6.8	▲5.5
衣料品計	▲2.2	▲1.8
身回品	2.3	1.5
化粧品	16.6	18.4
美術・宝飾・貴金属	7.7	16.5
その他雑貨	5.7	10.3
雑貨計	10.7	16.7
家具	▲1.1	▲1.4
家電	▲58.6	▲48.9
その他の家庭用品	▲8.8	▲8.0
家庭用品計	▲9.5	▲8.3
生鮮	▲2.4	▲2.6
菓子	2.4	1.4
惣菜	2.5	0.6
その他食料品	▲2.3	▲1.0
食料品計	0.1	▲0.2
食堂・喫茶	0.2	1.3
サービス	10.0	5.5
その他	▲4.3	▲2.1
<b>合計</b>	<b>0.3</b>	<b>1.1</b>

### 3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが好調を持続したものの、コート、ニットなど冬物衣料雑貨が不調であった。紳士服・洋品は、肌着、ワイシャツなどの動きがよかったものの、コート、セーターなどが苦戦した。身回品は、かばん・旅行用品、アクセサリ、ネクタイなどが好調であった。雑貨は、化粧品が好調を持続したほか、美術品は心齋橋店売り納めセールの高上げもあり、前年の4割超の増加となった。家庭用品は、名古屋店第3期改装による売場面積の減少が影響した。食料品は、菓子、惣菜などが好調であった。